

# 令和元年度 「森林サービス産業」検討委員会（第2回） 議事概要

1 開催日時：令和元年11月19日（火）15:00～17:00

2 場所：農林水産省三番町共用会議所「大会議室」

3 出席者：

（「森林サービス産業」検討委員会）

委員長 宮林 茂幸（東京農業大学 地域創成科学科 教授、  
美しい森林づくり全国推進会議 事務局長）  
副委員長 土屋 俊幸（東京農工大学大学院 農学研究院 教授、林政審議会 会長）  
" 鍋山 徹（（一財）日本経済研究所 専務理事、  
林業復活・地域創生を推進する国民会議 WG 主査）  
委員 赤池 学（（一社）CSV 開発機構 理事長）  
" 安藤 伸樹（全国健康保険協会（協会けんぽ） 理事長）  
" 稲本 正（東京農業大学 客員教授）  
" 大本 晋也（（独）国立青少年教育振興機構 理事、  
国立淡路青少年交流の家 所長）  
" 小川 幸生（全国町村会 経済農林部長）（代理）  
" 奥原 知幸（長野県営業本部営業局販売流通促進担当 主任）（代理）  
" 志村 格（（一社）日本旅行業協会（JATA） 理事長）  
" 津野田 勲（（一社）香りの健康ライブラリー 代表理事）  
" 吉弘 拓生（（一財）地域活性化センター  
総務企画部企画課クリエイティブ事業室長）（代理）

## 4 議事

### (1)「健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析」の方向性(エビデンス専門部会)について

- ・厚生労働省が昭和 63 年に設けた健康増進施設認定制度は、あまり活用されていない。この制度そのものが一般の方に知られておらず、施設利用に当たって医師が患者に処方箋を出すのが、医師もこの制度を知らない、というのが大きな原因。現在も施設はアップデートされているが、施設紹介のリンクをたどっても、この制度について紹介されていない。これらの施設が行う森林セラピーなどのプログラムに参加することで健康によい効果が現れることになれば、医療費の削減も期待できるので、良い制度になる可能性がある。厚生労働省とも話しながら進めていきたい。
- ・本検討委員会は、森林がもたらすサービス産業とは何かをもっと鳥瞰的に見る必要があるのではないか。健康や娯楽、教育的利用、さらに森林をフィールドにどのような6次産業化ができるかなど、どのようにパッケージにして森林のサービス産業化が出来るかを見ていく必要がある。

・海外のエビデンスを集めるのも重要だが、海外の森林サービス産業も広く調べた方がよい。

## (2)「森林サービス産業」のマッチング・情報共有の仕組み構築に向けた調査・分析の方向性(情報共有専門部会)について

- ・情報専門部会は膨大な情報が提供されており、エッジをどこに効かせるかが難しい。これをどう切り出すかがポイントではないか。
- ・色々な地域を見ると人の問題が大きい。なかなか行動に移れない人も多い。危機感を持って取り組んでいるところに光を当てるべきである。
- ・日本の多くの産業に共通している点は、マーケティングの視点が薄いこと。結果を出しているところは、ユーザー目線があり、マーケット志向である。自分たちで考える地域を増やすことがポイント。そこに省庁は質の高い情報を出し、若干の資金をつけることが必要。日本ではマーケティングやブランディングの議論をあまりしないので、そこは改める必要がある。そうしないと市場を広げるのは難しい。異業種のビジネスの組み合わせをどうしていくか、ネガティブからポジティブへの発想転換がゴールになるのではないか。

## (3)「香ビジネスの促進に向けた調査・分析」の検討状況(香イノベーション専門部会)について

- ・アロマ原料の国産シェアは6%くらいだと言われる。日本産アロマは出始めたばかりだが、今後増加する可能性はある。生産者は100者くらいあるが、大きい生産者は世界に向けて取り組んでいるなど、規模は千差万別であるなど、実態がよくわかってきた。地域性、グローバル性をどのようにつなぐかが課題。また、全国的な統一のエビデンスがないためこれを整理している。エビデンス部会で話題のあった手法については、アロマにも使えると思うが、ファンクションMRIを使わないとだめだ、など色々な意見を言う人たちもいる。この手法がエビデンスで認められれば、森林とアロマを両方やっている人たちもいるので、一気に広がると思う。

## (4)報告書の構成(案)について

- ・市町村の参考になるようなものにしたいということだが、できるだけ戦略的なものにしてもらいたい。
- ・建築の世界ではスケルトン・インフィルという言葉がある。スケルトンとはハードとしての汎用的な構造のこと、インフィルとはその構造の中にいかに多様な間取りや機能を導入するかデザインすること。この検討会でのスケルトンは森林での健康経営とのことだが、汎用的なハードの部分を探掘することは意味がない。森林での健康経営のスケルトンについて、インフィルとして多様なサービスのビジネスモデルがあることをもっと議論すべき。報告書では、森林サービス産業としての可能性を深掘り・議論し、実効性のあるものにすべき。
- ・いろいろな事業を進める際に地域での抵抗の話があったが、森林は長い期間をかけて、地域の様々な人々・団体が資源として育んできた。それに対してリスペクトをもって入っていくことが必要。
- ・各省庁には縦割りでいろいろな制度があるが、森林についてまたひとつ縦割りの制度を作ることは意味がない。縦割りを超えた具体的な案を出さないといけない。
- ・事業展開に当たって、安全管理責任の明確化は大事なこと。山道の管理者が何か起きたときに責任を負うようだとまくいかない。これについて議論を深めていただき報告書にも入れていただきたい。

## (5)ワークショップの開催方針等について

- ・この方向でよい。